

銅・アルミ

市況見通し

9月

銅

7月の伸銅品生産(速報値)は、前年同月実績を下回った。前月実績を上回ったのは、銅線、銅板、黄銅板の3品目。

7月の銅電線出荷量は同1.8%増の5万1800トで、うち国内が同2.8%増、輸出が同36.4%減だった。

銅スクラップ景況予想

8月の電気銅建値は同1.3%増の131万円が下

月初の131万円を付けた。流通(二次問屋)における8月の在庫は、伸銅品の生産減などに

より品薄となった。需要面は今月も自動車生産販売の回復から一定

の需要は見込めるが、スマートフォンおよびエアコン需要の回復が遅れているため、需給は低位安定で推移すると見ている。

LME銅・為替予想
今月は「米・FRB(連邦準備制度理事会)の金融政策」「中国景気回復の動向」に左右される。

(FOMC)での利上げは想定されていないとの見解を予想している。

中国景気回復の動向では、不動産バブルの崩壊が深刻化する中国において、大手デベロッパーの不良債権が次々と明るみに出ていく

を与えるものではなかったことから、9月の連邦公開市場委員会策では、8月25日のパウエルFRB議長の講演が市場にサプライズを出してはいるものの、いたちごっこ状態であるのが現状。景気後退は避けられないと見ている。

米・FRBの金融政策では、8月25日のパウエルFRB議長の講演が市場にサプライズを出してはいるものの、いたちごっこ状態であるのが現状。景気後退は避けられないと見ている。

橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート



銅輸出は、電気銅が同7.2%増の6万3479ト、銅スクラップが同28.4%増の3万4098ト。

銅輸出は、電気銅が同7.2%増の6万3479ト、銅スクラップが同28.4%増の3万4098ト。

9月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	8100~8800 ^F	横ばい
電気銅建値	121~136万円	強い
為替(1 ^F)	145~150円 (1カ月間TTM)	円安

7月のアルミ圧延品生産量(板類・押出類合計)は同5.6%減の14万7351トで16カ月連続のマイナスだった。生産量は板類が同6.6%減の9万2163ト、押出類が同3.7%減の5万5188トだった。

7月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同5.1%増の6万4256ト(3カ月連続のプラス)。輸出は同22.3%減の8万6295ト、アルミニウム二次合金が24.4%増の8万7481ト、アルミニウムスクラップが同32.7%減の290ト、アルミニウムスクラップが同18.7%増の6579トだった。

LME価格は2140~2195^Fと前月より50^F程度下落傾向だった。流通(二次問屋)の在庫は、自動車生産が回復基調にあるが9月の入荷もまだ少ない見通し。

アルミ

9月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2000~2200 ^F (現物後場買い)	横ばい
スクラップ	プラス5~10円 (前月最終価格より)	強い

需要面は、日本の自動車生産販売が堅調なこと、円安で輸入物が高くなっていることから、需要が出てきた。今月はさらに需要が増えるのではと見ている。

アルミスクラップ景況予想

アルミスクラップ景況予想